

アナログ

新潟県

心武館道場

中学1年 津野大梧

「VAR」みなさんはこの言葉をご存じですか？「VAR」とは、ビデオ・アシスタント・レフェリーの略称で別の場所からフィールド審判員をサポートする審判員の事です。「VAR」を導入している競技は野球、サッカー、柔道、テニスなどですが、剣道に「VAR」はありません。剣道は人だけが審判で、人と剣を交えて魅せて戦う武道です。剣道は人がいないと成り立ちません。戦う相手、審判の先生、その他多くの人たちが関わってはじめて試合が成り立ちます。

では、剣道にはなぜ「VAR」が導入されないのでしょうか？それは映像だけではわからない有効打突の見極め、つまり一本の判断ができないからだと思います。「VAR」を導入すれば誤審は減る、そう思うかもしれませんが僕は逆に増えると思います。なぜなら、踏み込みの音が何々dbだから一本、気迫が何々dbだから一本になる、など決まった数値がありません。例え膨大なデータを基に判断してもAIが判断するには難しいと思います。以上のことから「VAR」は導入されないと思います。

剣道に似た競技にフェンシングがあります。フェンシングは剣を互いの体に突いて勝敗を決めますが、剣道とは大きな違いがあります。それは審判の方法です。フェンシングは電気審判機を使いますが、剣道はアナログで人だけが審判です。また判定の方法も違います。フェンシングは体に剣を当てて一本となりますが、剣道の有効打突は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする、と定められています。これを審判の先生方は総合的に瞬時に判断して旗を上げます。さらに剣道は心を打つものであり、到底AIでは測ることはできません。

僕が剣道を学び始めて二年半が経ちました。始めた頃は試合に出てもなかなか勝てない時期が続きました。そして先生に「自分勝手な剣道をするな。」と

指導されました。その直後は「はい」とは返事したものの、「もっとゆっくり、じっくり攻めればいいんだよな？」と軽率に考えていました。ですが、試合や稽古を重ねるたびに、「自分勝手な剣道をするな」の意味が分かった気がしました。それは剣道が自分一人でやるものではなく、相手があってこそその剣道、相手を敬って、相手と心を通わせて初めて成り立つのが剣道だとわかり、剣道で最も大事なことは「心」なのだと学びました。剣道で学んだ「心」を日々の生活にも活かしていきたいです。

僕はいま、学年をまとめる学年委員長として日々を過ごしています。大勢の人に話し、物事を伝えていくことはとても難しく大変ですが、少しでも多くの人から聞いてくれるようにみんなと心を通わせて接していきたいと思っています。

剣道は「相手の心を打つ」と言われますが、剣道にはデジタルでは測ることのできないもっと奥深い世界があると思います。僕が剣道を始めた当初、剣道は単にスポーツでどこまでいっても習い事だと思っていました。しかし、剣道を学べば学ぶほど剣道の奥深さを感じ、剣道は日本の伝統文化であり、剣道の持つ精神性や心の重要性に気付かされました。

僕の目指す剣道は、ただ単にスピードに任せたどちらが速いかを競い合い勝敗を決めるスポーツではなく、強い攻めによって相手の心を動かし、相手の心を打つ「必然の剣道」、そして礼節を重んじ、相手にも礼を尽くす「心の剣道」です。僕はこの剣道を目指して日々の稽古を励んでいきます。